

# ナガレタゴガエル

*Rana sakuraii* Matsui & Matsui  
無尾目・アカガエル科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

分布域が奥越山岳地帯の源流域に限られ、ナガレヒキガエル同様、森林伐採・砂防堰堤建設・山岳林道開設等により存続基盤が脆弱である。

## 種の特徴

体長 40～65 mm、本県産は大型の個体が多い。体色は赤褐色でタゴガエルに似るが、後肢は長く、みずかきが非常に発達。繁殖期には皮膚が木の葉状にたるむ。山地の林床に生息し、3月ごろ溪流中の岩の下に卵塊を産み付ける。

## 分 布

関東から中国地方に局所的に分布する。県内では、奥越山地の標高 450～1050m の溪流に分布し、河川本流や小さな支流にも点在する。日本固有種。

## 生息を脅かす要因

砂防堰堤や林道の建設、河畔工事、森林伐採による溪流とその周辺の林床の悪化や水質汚濁が生存の脅威である。繁殖地の水環境と周辺の森林の陸環境を配慮し、一括して保全することが不可欠である。

参考文献 草野・福山 (1986)、前田・松井 (1999)、千石ら (1996)、石川県野生動物保護対策調査会 (2009)、百崎 (2010)、川内ら (2011)、川内・藤井 (2010)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○				○	○	

# アカハライモリ

*Cynops pyrrhogaster* (Boie)  
有尾目・イモリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

県内の低山から山地まで広く分布するが、開発等にもなう生息地破壊や圃場整備等による生息環境の変化により、個体群が小さくなり減少傾向がみられ、今後の動向に注意を要する。

## 種の特徴

全長 100 mm 前後、背面は黒く、腹面は赤色で黒斑がある。溜池、小川、湿地、山麓部の水溜り等に生息し、4～7月繁殖する。幼生は水中で生活し秋までに変態する。その後、陸上生活をし、成熟後は再び水中で生活することが多い。

## 分 布

本州から九州の低山から山地に分布。県内では、標高 1000m 前後から山麓部の農耕地や放棄水田、圃場整備された排水路等広く分布する。日本固有種。

## 生息を脅かす要因

圃場整備、用排水路のコンクリート化、農薬散布、湖沼・河川・湿地・草地・土地造成の開発等生息環境の変化や生息地破壊、乱獲により減少している。止水環境と周辺の陸環境を配慮し、一括した保全が必要である。

参考文献 千石ら (1996)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、内山ら (2002)、滋賀県 (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

# アズマヒキガエル

*Bufo japonicus formosus* Boulenger  
無尾目・ヒキガエル科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

山麓帯の森林開発や獣害により生息条件が悪化して減少傾向がみられる。近年、カエルツボカビ症感染症等本県でも確認されたことにより、今後の動向に注意を要する。

## 種の特徴

体長 140 mm 前後、背面は黄または茶褐色で、背中にイボを持ち、鼓膜が大きく明瞭である。繁殖は3～5月に水溜り、湿地、池等の止水に紐状の卵塊を産むことや止水に生息する幼生からナガレヒキガエルと区別される。

## 分 布

本州の近畿から東北地方の海岸から高山まで分布する。県内では、低地・山麓部から高地まで広く生息している。日本固有種。

## 生息を脅かす要因

低地・山地の開発、道路舗装化、森林伐採による生息地破壊、水質汚濁、交通事故死等が生存の脅威である。水環境と陸環境の繁殖環境の維持が不可欠でこのような場所の開発を避けることが保全あたって重要である。

参考文献 石川県両生爬虫類研究会 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、前田・松井 (1999)、滋賀県 (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○

両生類